

人為観と天為観・私の思考遍歴

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長 おお いし ひさ かず
大石 久和



過去は流れ去っていくものであり、過去に積み重なって今日があるわけではないと考えているから、沖縄を混乱に陥れた鳩山由紀夫元総理の過去の発言を誰も追求しないのだと前回に示した。それはもう流れ去ってしまった過去であるからである。

前回の消費増税では、著名な東京大学経済学部名誉教授が「消費税3%アップなど、ほとんど経済に影響しない」と述べたが、増税後、実質所得が伸びない、家計消費が下がるなどの、彼の予測とはまったく異なる国民生活への悪影響が続いてきた。

しかし、本人は鉄面皮にも平然としているし、モラルも何もないことにメディアはこの経済学者に何度もページを提供しているが、何の苦情も反論も出ないのである。

さて、今回は世界の人々と異なる感覚を持つ日本人の歴史観について述べてきた。

流れる歴史観と公文書の問題

このことが、公文書の扱いにも表れている。わが国に行政公文書を、各省庁をまたぐ形で保存するルールができたのは、なんと2011年の福田康夫総理の時代である。各省制度は百年を超える歴史があるのに、ずっと各省ご

とのルールでの文書保存だったのだ。

この時も、公文書をめぐるとの不祥事がきっかけだったのだが、最近もまた財務省の公文書の改ざん問題や防衛省の文書紛失など、公文書を巡る不祥事が世間を賑わしてきた。

これについていろいろな対策が議論されているが、さっぱり話題にならないのが、強い力を持つ公文書管理組織を持つべきという話である。アメリカの公文書を管理する国立公文書記録管理院NARAは、職員3000人を抱え院長は大統領によって直接任命される日本の会計検査院のような法律に基づく独立機関である。

イギリスはこれよりかなり規模が小さいが、それでもアメリカのような600人規模の文書管理組織を持っている。

歴史が流れる国で、「過去を保存する」ことを積極的に考える訳がないのだ。先の大戦終了後には、軍はもちろん政府も新聞社も、戦中戦前の文書をごっそり焼却処分してしまい、この間の政策判断の追跡を不可能として、恬として恥じない国柄なのである。

戦後のGHQによる政策検証も沖縄返還の際の密約機密文書も、日本の研究者などがアメリカの公文書館で調査しなければならないのが実態だ。遠い将来には、アメリカ側に有

利な文書ばかりが検索されかねないのだが、それはやむを得ないこととして受け入れるしかないのが実態だ。

さて異なる感覚のその2は人為と天為である。

人為観と天為観

これは、ヨーロッパなどの人々とわが日本人との自然災害の経験の差がもたらしたものである。旧約聖書は、神は自らの手で自分に似せて人間を作り、万物を支配させるためにこの世に送ったと記述している。

旧約聖書によると人間以外の生物などは神の言葉から生まれたのに、人間だけはわざわざ神が手を煩わせて、また神に似せて作ったという特別の存在だし、それがこの世に存在するのも万物支配という運命的任務を背負っているというのである。

さて、不思議な話をするようだが、ここで大地・国土の話である。ヨーロッパの主要な都市は、その多くが有史以来、すべての建物を破壊してしまうような大震災を経験していない。モスクワ、ベルリン、パリ、ロンドンなどすべて経験がない。

数少ない例外は、1755年に大地震を経験したポルトガルのリスボンくらいである。ついでに紹介すると、ニューヨークも大地震の経験はないし、おまけにエンパイアステートビルやセントラルパークのあるマンハッタンは一つの岩のかたまりという強固な地盤でできている。

おまけに、ヨーロッパの主要部は大平原と緩やかな丘陵の上に存在するが、そこは氷河時代には何kmにも及ぶ氷河が覆っており、この氷河が融解していく過程でそこにあった風

化岩をすべて海に押し流していったのだ。

したがって、ヨーロッパの主要部はフレッシュな岩の上であって、周辺に風化した岩など存在していない。

一方わが国は、大都市はすべて海水面が今より数メートル高かった6000年ほど前の縄文海進の時代から、海面が低下するにしたがって河川が押し流してきた土砂による扇状地や三角州の上に存在している。ヨーロッパとの比較でいえば、ズブズブの軟弱地盤の上に立地している。

さらに、わが国の氷河期には氷河は山岳地帯にしかなかったから、氷河が融解する際に風化岩を山地に残してきてしまったのである。

このヨーロッパとは大きく異なる大地を持つ日本列島に、頻繁と言える頻度で大地震が襲い、梅雨末期や台風などによって豪雨がもたらされるのである。人間は、地震で家畜などとともに瓦礫の下敷きとなり、洪水では流木や飼っていた牛・馬・犬などとともに流れていくのである。

どこに「人間だけは特別な存在」があり、どこに「万物を支配する姿」があるだろうか。そんなものは、どこにもないというのがわれわれの日本列島の姿なのだ。われわれ日本人には、「人間とは最高の支配者である」などという考えを到底受け入れることはできない。

われわれには、「山川草木国土悉皆成仏」という感覚がピッタリなのだ。山にも川にも、草や木、国土にまで仏性が宿っており、それらはやがて仏となるのだという万物平等の精神が埋め込まれているのである。

どちらが、生物や自然の実態をふまえた普遍論理だろうか。